

# 川崎の男女共同社会を **すすめる会通信** No.196

●連絡先 藤井光子 hymico@me.com Tel 044-944-7872 ●発行日2019年 5月25日  
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>

## 2019 川崎市男女共同参画センター協働事業

3月3日に行われた、協働事業第2次選考会の結果、採用になりました。非正規で働く人は2036万人、その6割が女性です。40歳前後の非正規労働者が増加して、未婚率も上昇。男性も含めて、シングル女性の壮年非正規労働者の割合が増加しています。

非正規職シングルをとりまく現状や課題について、考えましょう。

### 非正規シングル女性の現状とこれから ～社会の変化と女性の貧困を考える～

■日時 2019.10月27日(日) 13:30～

■講師 飯島裕子さん 東京福祉大学講師

著書に『ルポ貧困女子』『不安定雇用と若年女性』など

■ゲストスピーカー 茂木直子さん 多摩区在住  
非正規シングル女性のピアグループKIBI代表

■場所 川崎市男女共同参画センター すくらむ21

## 6/23(日) すくらむまつり 展示参加

テーマ：差別をなくそう！多様性を認める社会へ  
子どもや青年に、シール投票で夫婦別姓について聞き  
ます。世界に広がる#Me tooなどの運動の紹介など。

■6/1(土) かながわ女性会議総会&公開講座

場所 県立神奈川女性センター (かなテラス)

講演 「国連差別撤廃条約から見える日本の姿」

講師 近江美保さん (神奈川大学教授)

■6/16(日) 川崎母親大会 エポック中原

講演：メディアは真実の報道を！

講師：神奈川新聞社川崎総局編集委員

■9/21(土) ごえん楽市参加 (市民活動センター)

2019年度 5/11総会と上映会に25名

上映会▶「たたかいつづける女たち」には、25名方々の参加で大盛況。

トーク▶伊藤みどりさんのコメントに続いて、会場からも次々と現在の日本の女性の状況や、それぞれが抱えている問題などが出されました。▷「映画を通して、様々な世代間や立場の方の声を聞くことができたので、とても有意義な上映会だと思います」▷「再上映をしていただきたいです」などなど、たくさんの感想をいただきました。

サプライズ★2監督の来場 コメントーターの伊藤みどりさんが、監督の山上千恵子さんと一緒にきてくださったこと。そして山上監督が、映画「雪子さんの足音」の浜野佐知監督をお誘いしてきてくださり、映画に託したことなどを語っていただきました。2監督の予期せぬ参加を得て、素晴らしい上映会になりました。また、県議員になられた石田和子さん(高津区)、市議員の井口真美さん・赤石ひろ子さん(多摩区)からもご挨拶やご意見をいただきました。(F)



監督

浜野佐知

主演

吉行和子

5月18日(土)～

渋谷ユーロス

ペース

6月15日(土)～

横浜シネマ・

ジャック&ベ

ティ



たたかいつづける女たち  
映画とトークの集い

25人の参加者から  
感想続々…

◆伊藤 機会均等法は能力のある者は報われる。能力主義が平等論の中軸になっている。だからみんな助け合わない。能力のない人は置いてきぼりにする。30年経ってどうだったのだろうか。日本より先駆的だった平等の国といわれていたアメリカでとんでもない女性差別主義の大統領がなんでもうまれたのか、そこも含めてみなさんの立ち位置からみた感想を出し合っただけけるとうれしいなと思います。私も登場していましたが、介護保険もこの状態で行けば崩壊してしまいます。今、1人が2.5人をみているが、団塊の世代が75歳になったとき、今でさえ人がいないのに、厚労省は（人を）物扱いで人権は関係ない…となりかけています。（これからは）若い人がお年寄りを支えないといけない、そのジレンマとかあわせてみていただければと思います。たくさんの登場人物がでていきますので、みなさんの率直な意見交換が出来たら嬉しいと思います。

● 私自身も非正規雇用で働いていました。職場では非正規雇用の方が67%、逆転していました。生きるために働くはずなのに、命を削らないといけない。映画は女性にフォーカスされていますが、生活相談などでは女性だけでなく、高齢者、LGBTの方々、障害者などたくさんいます。生きる希望が持てないような、自己肯定感が持てないような、生きるか死ぬかのところまで来ていると、ひしひしと毎日感じています。なんとか変えないと、本当に大変な社会になるなと実感しています。

● 私は医療で働いてきました、私が働いている時には、経営者と労働組合と話し合いをもっていました。今はそれがなくなっている。この間行ったら、患者さんが助けて、助けてと声をあげていましたが、看護師さんも行っている暇がないという状況を見ました。私が働いていた時

は「看護師さん助けて」と言われるとすぐ行き、オムツ取り替えたりできていました。心痛めて帰ってきました。労働者がつらいとか、患者さんがつらいとか、労働時間が長いとか、週に2～3回働いているとかなっているけど、私が働いていた時は言いたいことが言えました。今はそれがなくなっている。

今日映画を見て自分は何をしたらいいのか…、行動していくことが、声を出していくことが大事だと感じました。（Kさん80代）

● 息子も息子の妻も福祉の職場で働いています。土曜も日曜も休めるというのは少ない。個々バラバラ、雇用の形態が違う、そこをどのように結びつけたらいいのか、これが課題です。ひとり一人をどうやって結びつけたらいいのか、ひとりぼっちが多すぎます。小さい時から競争に追われている、子育てできない、介護が出来ない、命が守れない、みんながつながっていくことを考えないといけないと思います。

● 団塊世代の次の世代が集まっていないと感じます。団塊世代がなくなると私たちの世代はバラバラ。政府の働き方改革は全員が個人事業主になれということ。結局、会社は責任は取れません、ということなので、そこがどんどん進んでしまふんじゃないかな。

私たちの世代はものすごく怖いんです。私たち団塊ジュニアは非正規雇用にならざるをえない。産めるような賃金をもらっていない。安倍政権の働き方改革に惑わされてはいけません。一人ひとりバラバラにさせようとして個人事業主にさせようとしています。

20代は若い子はデモなどに来ています。20代はまとも。団塊ジュニアはバラバラ。真ん中の世代が抜けています。（Mさん40代）



◆伊藤 若い層の中も格差が生まれています。能力主義の話になると、大学入試で、はじめから男性には下駄を履かせ、入学、合格。下駄もはけない人たちが若い世代にはいっぱいいて（同世代でも）分りあえなさがいっぱいあります。

映画に出てきたイブ・リブ・リレーをやった人たちの世代は、大学の先生だったり、弁護士さんだったり、議員さんだったり、階層上の人たちでした。あの時代でも、もっと下層の女性たちがたくさんいました。その人たちが今、年金生活ができず、夫が亡くなると一挙に生活ができなくなります。シングルで年金もないから生活保護受けて、公営住宅に応募しているが、入れません。格差が世代を超えて現れていると思います。

アメリカ大統領候補に女性が出ていますが、一番うごめいている人たちの声が拾われたのか、というところが次の反省点だなという気がしています。

とにかく今はどん底、だが殺されてはたまらない、殺されてはたまらないから生き延びよう。だから、どうやって生活を支えあったらいいのか…。フードバンクに登録したり、生きていけないということが誰かに言える状態にしていかないと、ほんとうにみんな殺されちゃうという危機感があります。いま少しゆとりがあるのであれば、どうやって生活を支えあうのか。子ども食堂どころではなく「大人食堂」というのを聞きました。みんながバラバラにされて、競争主義にされて、能力主義にされて、能力ある者は能力に応じて平等が勝ち取れる社会でない社会、そういう（現実についての）議論も必要なのかな。

理解しがたいぐらいの格差、何とかできないかなと思います。

Q. 専業主婦は何パーセントぐらいですか？

◆伊藤 資料はありませんけど。専業主婦でいられる／夫が公務員で2人分の稼ぎがある／大企業の正社員である人は…？

私のまわりにいるあえて専業主婦といっている人がいます。夫の収入も良くなく、障害者年金をもらい、貧困専業主婦です。

安倍政権が言っていることは「働かなくて年金もらってとんでもないから、専業主婦の年金を半額にしよう」ということ。安定して働ける場にいるんだったらいいのですが、どこまでも搾り取る気か。

消えた年金問題も不問。2012年から7年間賃金統計を廃棄した。多分アベノミクスの失敗がはつきりするんで、見せなくなかったのでしょうか。そういう信じられないようなことや、統計がいろいろ出てくる。「女性の働く人口が増えた、女性活躍社会」と言いたかったのでしょうか。派遣・パートなどで働く女性が、非正規雇用者の6割を越えています。そこをキチンと見ていかないと。

年金は70歳から。70歳まで働かせたい。終身雇用はなくなっています。50代の方は65歳まで勤められるかわかりませんが、企業もお金高く払いたくないから副業を解禁して、副業歓迎しています。「キャリアを積みますよ」と、キラキラしたイメージ。AIも入ってきているので、多分事務仕事もなくなるんじゃないか。着々と進行している状況だと思います。暗い話ばかりですが、明るい話もしましょう。

保育職も介護の仕事は増えます。本当に必要なところに国がお金をかければ経済はまわるはずだし、私たちはもっともっと要求してもいいと思います。我慢できないという怒りが出てこないでしょうか。最近空気を読むらしく、怒らない人が多いです。もっと怒っていいと思う。

● 映画を見て衝撃的だったのは、男女雇用機会均等法が出来る前と後で、単なる間接差別になっただけで差別の現状は何も変わっていないことでした。差別に耐えながらみんなが生きている、何かを犠牲にしながら生きているような。子どもをあきらめたり、賃金をあきらめたり、何かを犠牲にしながらのり越えるのではなく、単に耐えながら生きている。お金をかけるところにお金をかけないといけないのではないか。自分たちのことなので声をあげていかなければいけないなと思いました。(ワーカーズネットの「ワークルールセミナーの宣伝 林弁護士)



サプライズで参加の  
↑山上千恵子監督 浜野佐知監督↓

● 一人ひとり分断されています。友人男性は同時に両親の介護しないといけなくなっています。保育の場で再就職して3年目の友人は、殆どのことをまかされていますが(労働条件が)あまりにも悪すぎて、若い人は入るとすぐやめていくと嘆いています。彼女は責任感が強い人で、一人でかかえて、一人でどうしていいかわからないから、(悩んでいるのは)自分一人でないと知ることだけでもすごくパワーになるだろうなと思います。連携していきたい。(Nさん40代)

● 1985年は私ぼ～としていました。50人くらいの会社。女性の管理職いないので「あの人はなぜ管理職にならないのですか？」と聞いたら、産休・育休取ったからだと言われました。いい人がやめたので理由を聞いたら、男性に暴力受けたと。大きい男性の声聞くと冷や汗が出ると辞められた。(Hさん50代)

● 子どもを育てながら良くやったなと思っています。40代の娘と息子に「お母さんあんなに夜出かけて色々やっていたのに、何も変わっていない」と言われました。世代によって課題が変わっていくのは当然だろうけど、もっと生きやすい国民的な課題がつかれないか。男の人の給料も安いし、女の人でも子ども産んだら総合職は無理だよとか、いまだにあります。問題が複雑化したような気がします。男も女も高齢者も障害者も、もう少し人間らしい暮らしをしたいねというところで手

をとって課題づくりをしたいなとしみじみ思っています。

◆伊藤 働くとは何かと議論になりました。2009年リーマンショックの年の総会に、20代30代の人をパネリストにして議論したのですが、全員が働くのは怖いと発言。すると団塊

世代の人、年配の人たちが「女は働くために闘ってきたのに、今の若者は働くの

が怖いと言っている。すごいショックだ。努力する者は報われる。だから自分は会社の中で一所懸命頑張って、バック



や色々な物を買えるようになった。そう思って働いてきたのに…」と発言したのです。

そこから私たちは、若者の自己責任論、働かないからいけないんだとか、親にパラサイトしているのはどうなんだ(ということ話し合いました)自己責任論が広がっていき、生活保護者がバッシングされる時と、その後、困窮者自立支援法が出来る時期と重なっていきます。すごく能力主義。昔、国土交通省で働いていたことがあるのですが、障害者の人も一緒に働いていた。仕事が終わる4時になると、仕事が遅い人もいるが、みんなが手伝って一緒に帰宅しました。

以前は、仕事が遅い人と給料が同じなのはおかしいよという人はいませんでした。今は企業中心社会というか、企業の中で出世することが自立みたいなの、専業主婦の人は努力が足りないとか、働けるのに働かない子どもたちはおかしいとか、全部自己責任という罫にからめとられているのではないかということで、私たちは働くとは「命を支えること。賃金が支払われる労働だけでなく、家事・育児・社会活動・趣味、人は支えあうこと」としました。そして今年、「働く」から「はたらく」にした。助け合うという仕組みがつかれないかな。産業だけでなく、農業、いろんな自営も含めて、助けあう仕組みができるようになると思います。

★ 感想より ★☆☆

再上映していただきたいです！

女性が働きやすい社会を作り上げていくために、人々の意識のみならず、法律や予算を充実させることが大切だと思います。

無関心でいられない命と生きる、生活の場、格差でバラバラになっている今 どうつないでいくか。

映画を通して、様々な世代間や立場の方の声がかきくことができたので、とても有意義な上映会だったと思います。(50代-市外)

活動・運動していることに、良いことやっているのに大変 苦勞を希望に変えたいですね!!

今日参加できました事、色々と知ること考えさせられました。

雇用機会均等法成立前の差別は、総合職・一般職や正規・非正規といった形で現在も残っているということがよくわかりました。そして、その差別に耐えながら(子どもをあきらめたり、賃金をあきらめたり、何かを犠牲にしながら)女性たちが生きることを強いられている-ということを改めて感じました。

映画を見るだけで終わらず、感想を出し合う中で共有体験を言語化し合うことで、同時代を過ごした方、女性史として学ぶ方などさまざまな年代の理解を深められたと思います(70代-麻生区)

映画の中の連帯に近いものを革新都政の時、組合のある職場で体験しましたが、民間の職場、独立した職場では、ほど遠い格差とバラバラを感じ、その差はどこからなんだろうと考えさせられました。現実はさらに厳しくなっていることを改めて感じました。(70代-高津区)

あきらめない。今、自分ができる事、身体と相談していきましょう!!(70代-川崎区)

女性ニュース



■女性管理職、世界27.1%

日本12% 先進7か国(G7)で最下位

3/7 国際労働機関(ILO)は、2018年に世界で管理職に占める女性の割合は、27.1%に到達したと発表。米国39.7%、英国35.9%、カナダ35.3%、フランス32.1%、ドイツ29.2%、イタリア26.9%。報告書は、世界的に女性の管理職登用が進んでいないとの認識を示し、その理由を女性が家庭内で育児や介護などの無給の仕事に追われていることを挙げた。

ILOは、男女平等推進のためには「クォーター制導入(女性管理職・役員の割合を一定にする)など法制度の強化が必要だ」と強調した。

■C20サミットへの提言を

4/21 世界のNGO やNPO などの市民運動組織が東京で、G20(20カ国地域首脳会議)大阪サミットへの提言を集約する会合を開催した。世界

から400人以上が参加し、反腐败・ジェンダー・子どもに対する暴力などの問題を議論した。

■女性活躍推進法等改定案-参院審議入り

4/16の参考人質疑では、改定案が企業にパワハラ防止措置を義務付けてはいるが、セクハラもふくめ、ハラスメント行為を禁止する規定を見送り、顧客や取引先などの第三者からのハラスメントは対象にせず、被害者救済のための独立した機関の設置も先送りしており、極めて不十分だと指摘された。長尾ゆり婦人団体連合副会長も「セクハラ・マタハラの現状を見れば措置義務を書き込んでも実効性が無く、解決にならない。ヨーロッパの法制やILO条約を手本にすべき」と訴えた。

伊藤知子弁護士は、6月に採択されるILOの職場のハラスメント禁止条約案が、就職志望者や実習生、顧客、患者など、対象を幅広く定義していることを指摘し「ILO条約を批准し、これに即した法整備をすべきだ」と強調した。

## 2019 統一地方選挙での女性議員は？

今回の選挙は、「政治分野の男女共同参画推進法」が昨年成立した後に初めて行われたこともあり、各党が同法を意識して候補者の擁立を図るのが注目を集めたが、全国で候補者数こそ過去最高にはなったが、法が求めた目標には遠く及ばなかった。

### ・女性県議 過去最高

41 道府県議員選挙には 3062 人中の 389 人で前回より 10 人多い女性が立候補(候補者全体に占める割合は 12.7%で前回より 1%増)した。推進法は政党に対して候補者数の男女均等を目指すとされているが、自民党は 4.2%、立憲民主党は参院比例代表は 40%と目標を掲げた。共産党はほぼ 5 割だった。

**当選者は 237 人(当選確率は 60.9%)で議席占有率は 10.4%で人数、割合ともに過去最高であった。**

共同通信のまとめによると、議会定数に閉める女性割合の 1 位は改選の無い東京都が 28.3%、2 位は京都府の 21.7%、3 位は神奈川県 of 18.1%。最下位は女性 1 人しかいない山梨県の 2.7%、46 位は熊本県の 4.1%、45 位は大分県の 4.7%

**女性議員が増えたのは**、4 人増の新潟県、静岡県、3 人増の愛媛県、2 人増の山形県、群馬県、宮崎県、1 人増は香川県、佐賀県。減ったのは、愛知県 3 人、北海道 2 人、1 人減は福井県、広島県、山口県、熊本県。

**政党別で女性議員比率**をみると、自民党 3.5%、立憲民主党 24.6%、国民民主党 14.5%、公明党 8.4%、共産党 51.5%、日本維新の会(大阪維新を含む) 6.0%、社民党 18.2%、希望の党は男女とも当選者なし、自由党は女性擁立なし。

### ・神奈川県では、女性県議過去最多に

県議会(定数 105)には、女性候補 33 人中 19 人当選し議席占有率 18.0%(前回 17 人 16.1%)、全 48 選挙区中 18 選挙区で女性候補が議席を得、高津区では女性 2 議席得、小田原市で県西初の女性県議が誕生した。

党派別に見てみると、県議会では立憲民主党が 6 人で最多、共産党 3 人、

**横浜市議会**(定数 86)には改選前 11 人から 5 人増の 16 人になり議席占有率は 18.6%(最高 18 人)

**川崎市議会**(定数 60)には改選前 11 人から 4 人増の 15 人になり議席占有率は 25.0%(23.3%)

**相模原市議会**(定数 46)には改選前 9 人から 1 人増の 10 人になり議席占有率は 21.7%(19.5%)

### 後半戦一市町村

神奈川県では 14 市町で議員選挙が実施され総定数 306 人中 67 人(前回より 2 人増)の女性が当選した。党派別では、30 人が無所属、自民党 42 人中 5 人、立憲民主党 11 人中 2 人、国民民主党 4 人中 2 人、公明党 43 人中 15 人、共産党 26 人中 7 人、神奈川県ネットワーク運動は 6 人全員女性。

**議席占有率 高いのは**、山北町(定数 14) 5 人 葉山町(定数 14) 5 人の 35.7%(2 人引退—14.3%) 綾瀬市(定数 20)も 6 人当選し 30%、南足柄市(定数 16) 改選前 1 人から 3 人増の 4 人になり 25% 大和市(定数 28)も 25%、三浦市(定数 13) 23% (-7.7%)、茅ヶ崎市(定数 28) 改選前 8 人から 1 人増の 9 人になり 22.1%

**低いのは**、藤沢市(定数 36)、中井町(定数 12)、開成町(定数 12)の 16.6%、平塚市(定数 26) 15.3% (-2.5%)、横須賀市(定数 40) 当選 4 人で 10% (-4.6%)です。

前半戦と後半戦を合わせ**県全体の議席占有率は 21.0%**で政府目標の 2020 までに 30%に届かなかった。

### これからの活動

5 月 30 日(木) ワーカーズネットかわさき  
ワークルール講座 てくのかわさき  
6 月 13 日(木) 幹事会 13:30 すくらむ 21  
6 月 16 日(日) 第 61 回川崎母親大会 エボックなかはら  
6 月 23 日(日) すくらむまつり 参加

### 活動日誌

3 月 10 日 通信印刷・発送  
3 月 16 日(土) 震災体験者から学ぶ暮らしへの備え  
参加 すくらむ 21  
3 月 27 日(水) 幹事会 10:00~すくらむ 21  
4 月 10 日 映画アルバート氏の人生 参加  
4 月 11 日(木) 幹事会 10:00~すくらむ 21  
4 月 13 日(土) 会計監査 すくらむ 21  
4 月 16 日(火) 議案書印刷・発送  
4 月 23 日(火) 協働事業 すくらむとの契約  
5 月 6 日(月・替) 幹事会 14:00~すくらむ 21  
5 月 11 日(土) すすめる会第 36 回総会  
すくらむ 21